

特定非営利活動法人 J S B デイリーサポート 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人 J S B デイリーサポート という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を 大阪府箕面市 に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、地域のすべての人が安心してつながり、支え合える社会の実現を目指し、介護、医療及び福祉の増進に関する事業並びにラグビーの普及・振興及び地域貢献活動を通じて、地域住民の交流促進、青少年の健全育成、生涯スポーツの推進、健康で文化的な長寿社会の形成及び地域コミュニティの活性化を図り、孤独と社会的孤立の解消へ導き心身の健康を守るまちづくりに寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、その目的を達成するため、特定非営利活動促進法（以下「法」という。）第2条別表のうち、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (5) 子どもの健全育成を図る活動

(事業)

第5条 この法人は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
 - ①一般乗用旅客自動車運送事業
 - ②高齢者に対して、身の回りの平易な作業を手伝う事業
 - ③認知症サポーターを養成する事業
 - ④ラグビーの振興・普及・支援に係る事業

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって法上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

3 理事長は、前項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第12条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上
- (2) 監事 1人以上

2 理事のうち1人を理事長、1人を副理事長とする。

(選任等)

第13条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

- 第14条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。
- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
- (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に關し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

- 第15条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。
- 3 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

- 第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

- 第17条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。
- (1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

- 第18条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。
- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に關し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

- 第19条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。
- 2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第20条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第21条 総会は、正会員をもって構成する。

(機能)

第22条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び活動決算
- (6) 役員の選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第48条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第23条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第14条第5項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第24条 総会は、第23条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、第23条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から15日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第25条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第26条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第27条 総会における議決事項は、第24条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

（表決権等）

第28条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第26条、第27条第2項、第29条第1項第2号及び第49条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

（議事録）

第29条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（1）日時及び場所

（2）正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

（3）審議事項

（4）議事の経過の概要及び議決の結果

（5）議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が記名、押印しなければならない。

3 前2項の規定に関わらず、正会員全員が書面により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（1）総会の決議があったものとみなされた事項の内容

（2）前号の事項の提案をした者の氏名又は名称

（3）総会の決議があったものとみなされた日

（4）議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第6章 理事会

（構成）

第30条 理事会は、理事をもって構成する。

（機能）

第31条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

（1）総会に付議すべき事項

（2）総会の議決した事項の執行に関する事項

（3）その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第32条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第14条第5項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第33条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長は、第32条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から15日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第34条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第35条 理事会における議決事項は、第33条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第36条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、第35条第2項及び第37条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第37条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が記名、押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第38条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立の時の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の管理)

第39条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第40条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(事業計画及び予算)

第41条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第42条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加及び更正)

第43条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第44条 この法人の事業報告書、活動予算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第45条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨時の措置)

第46条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第47条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第48条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続き開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第49条 この法人が解散（合併又は破産手続き開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会で議決したものに譲渡するものとする。

(合併)

第50条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第51条 この法人の公告は、官報に掲載して行う。

ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人の主たる事務所の掲示場に掲示して行う。

第10章 雑則

(細則)

第52条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。ただし、第51条ただし書きの規定は法第28条の2第1項の規定の施行の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長 北村 眞隆
副理事長 池永 理紗
理事 久武 芳
監事 草加 由紀子

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成31年6月30日までとする。

4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第41条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。

5 この法人の設立当初の事業年度は、第45条の規定にかかわらず、成立の日から平成31年3月31日までとする。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 正会員入会金	10,000円
正会員会費	月額 1,000円
(2) 賛助会員入会金	5,000円
賛助会員会費	月額 500円

附則

1 この定款は、令和 1年11月21日から施行する。

附則

1 この定款は、令和 2年 7月20日から施行する。

附則

1 この定款は、令和 3年 9月21日から施行する。

附則

1 この定款は、令和 6年 9月19日から施行する。

附則

1 この定款は、令和 年 月 日から施行する。

第 9 年 度 事 業 計 画 書

(令和8年4月1日～令和9年3月31日)

特定非営利活動法人 J S B デイリーサポート

I 事業の実施方針

設立9年度は、法人としての組織基盤をより再確立するため、法人の活動内容について積極的な広報活動を行ない、会員の拡大を目指す。また、法人の特定非営利活動に係る事業として、体の不自由な方や疾病のある方への一般乗用旅客自動車運送事業（介護タクシー）、高齢者を対象にした身の回りの平易な作業を手伝う事業の及び認知症サポーターを養成する事業を行なうとともに、新たにラグビーの振興・普及・支援に係る事業を通して地域の幅広い年齢層の方々の心と体の健康をサポートする。

II 事業の実施に関する事項

1 特定非営利活動に係る事業

(1) 一般乗用旅客自動車運送事業

【内 容】 介護保険外の実費タクシー。病院からの退院・転院や車いすを使う方々を移送する。

【実施場所】 箕面市及び近隣の地域

【実施日時】 毎日 9:00～18:00

【事業の対象者】 身体の不自由な方や疾病のある方

【収 益】 1,848千円（運送料@3千500円×2回×22日×12ヶ月）

【費 用】 724千円（燃料費@30千円×12ヶ月＝360千円、車両費 100千円、
保険料@10千円×12ヶ月＝120千円、
地代家賃@12千円×12ヶ月＝144千円）

(2) 高齢者に対して、身の回りの平易な作業を手伝う事業

【内 容】 高齢者宅にて、草刈りや部屋の模様替え、植木の水やりなどのお手伝いを行う。

【実施場所】 高齢者宅

【実施日時】 週3回

【事業の対象者】 高齢者

【収 益】 288千円（利用料@2千円×12回×12ヶ月）

【費 用】 148千800円（給料手当@10千円×12ヶ月＝120千円、
旅費交通費 28千800円）

(3) 認知症サポーターを養成する事業

【内 容】 認知症の理解を深めることを目的に、認知症サポーター養成講座を実施する。

【実施場所】 箕面市半町2丁目14番10号（当法人事務所）

【実施日時】 月1回

【事業の対象者】 認知症について理解を深めたい方

【収 益】 0円

【費 用】 12千円（消耗品費 12千円）

(4) ラグビーの振興・普及・支援に係る事業

【内 容】 ラグビーを通じたイベント（試合観戦・パブリックビューイング・交流会など）・ラグビープレイヤーの育成及び活動機会支援（ラグビー教室・出前授業など）・地域振興（地域のラグビーチームへの紹介など）を行なう。

【実施場所】 箕面市を主として北大阪地域

【実施日時】 試合観戦 年2回

パブリックビューイング 年2回

交流会 年4回

ラグビー教室 月4回

出前授業 月1回

【事業の対象者】 地域住民である小学生、中学生、高校生及び大人

【収 益】 574千円（年会費@1千円×30名=30千円、

試合観戦参加料@3千円×20名×2回=120千円、

パブリックビューイング参加料@3千円×20名×2回=120千円、

交流会参加料@3千円×20名×4回=240千円、

ラグビー教室参加料@200円×20名×4回×4ヶ月=64千円）

【費 用】 507千円（消耗品費@500円×30名=15千円、

教育研修費 240千円、交際費 240千円、什器備品 12千円）

(定款にその他の事業の定めがない場合の活動予算書)

第9年度活動予算書

令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

特定非営利活動法人J S Bデイリーサポート

(単位:円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	0		
賛助会員受取会費	0		
		0	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	0		
施設等受入評価益	0		
		0	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	0		
		0	
4. 事業収益			
一般乗用旅客自動車運送事業収益	1,848,000		
高齢者に対して、身の回りの平易な作業を手伝う事業	288,000		
認知症サポーターを養成する事業収益	0		
ラグビーの振興・普及・支援に係る事業収益	574,000		
		2,710,000	
5. その他収益			
受取利息	20,000		
雑収益	200,000		
		220,000	
経常収益計			2,930,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	120,000		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	120,000		
(2) その他経費			
燃料費	360,000		
車両費	100,000		
保険料	120,000		
地代家賃	144,000		
旅費交通費	28,800		
消耗品費	27,000		
教育研修費	240,000		
交際費	240,000		
什器備品	12,000		
その他経費計	1,271,800		
事業費計		1,391,800	
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	20,000		
人件費計	20,000		
(2) その他経費			
旅費交通費	50,000		
リース料	100,000		
修繕維持費	30,000		
通信費	100,000		
水道光熱費	30,000		
接待交際費	30,000		
保険料	100,000		
消耗品費	50,000		
支払手数料	100,000		
諸会費	100,000		
支払報酬料	200,000		
新聞図書費	10,000		
租税公課	50,000		

支払利息	20,000		
雑費	10,000		
その他経費計	980,000		
管理費計		1,000,000	
経常費用計			2,391,800
当期経常増減額			538,200
Ⅲ 経常外収益			
1. 固定資産売却益		0	
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
1. 過年度損益修正損		0	
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			538,200
前期繰越正味財産額			△ 8,198,640
次期繰越正味財産額			△ 7,660,440

第 10 年 度 事 業 計 画 書

(令和9年4月1日～令和10年3月31日)

特定非営利活動法人 J S B デイリーサポート

I 事業の実施方針

設立10年度も引き続き、法人の活動内容について積極的な広報活動を行ない、法人の特定非営利活動に係る事業の基盤を構築し、支援事業の内容の充実と質の向上を図り、あらゆる世代・立場の人々が安心してつながり、支え合える社会の実現に向けて地域の皆様の心と体の健康をサポートする。

II 事業の実施に関する事項

1 特定非営利活動に係る事業

(1) 一般乗用旅客自動車運送事業

【内 容】 介護保険外の実費タクシー。病院からの退院・転院や車いすを使う方々を移送する。

【実施場所】 箕面市及び近隣の地域

【実施日時】 毎日 9:00～18:00

【事業の対象者】 身体の不自由な方や疾病のある方

【収 益】 1,848千円 (運送料@3千500円×2回×22日×12ヶ月)

【費 用】 724千円 (燃料費@30千円×12ヶ月=360千円、車両費 100千円、
保険料@10千円×12ヶ月=120千円、
地代家賃@12千円×12ヶ月=144千円)

(2) 高齢者に対して、身の回りの平易な作業を手伝う事業

【内 容】 高齢者宅にて、草刈りや部屋の模様替え、植木の水やりなどのお手伝いを行う。

【実施場所】 高齢者宅

【実施日時】 週3回

【事業の対象者】 高齢者

【収 益】 288千円 (利用料@2千円×12回×12ヶ月)

【費 用】 148千800円 (給料手当@10千円×12ヶ月=120千円、
旅費交通費 28千800円)

(3) 認知症サポーターを養成する事業

【内 容】 認知症の理解を深めることを目的に、認知症サポーター養成講座を実施する。

【実施場所】 箕面市半町2丁目14番10号 (当法人事務所)

【実施日時】 月1回

【事業の対象者】 認知症について理解を深めたい方

【収 益】 0円

【費 用】 12千円 (消耗品費 12千円)

(4) ラグビーの振興・普及・支援に係る事業

【内 容】 ラグビーを通じたイベント（試合観戦・パブリックビューイング・交流会など）・ラグビープレイヤーの育成及び活動機会支援（ラグビー教室・出前授業など）・地域振興（地域のラグビーチームへの紹介など）を行なう。

【実施場所】 箕面市を主として北大阪地域

【実施日時】 試合観戦 年2回

パブリックビューイング 年2回

交流会 年4回

ラグビー教室 月4回

出前授業 月1回

【事業の対象者】 地域住民である小学生、中学生、高校生及び大人

【収 益】 732千円（年会費@1千円×60名=60千円、
試合観戦参加料@3千円×20名×2回=120千円、
パブリックビューイング参加料@3千円×20名×2回=120千円、
交流会参加料@3千円×20名×4回=240千円、
ラグビー教室参加料@200円×20名×4回×12ヶ月=192千円）

【費 用】 495千円（消耗品費@500円×30名=15千円、
教育研修費 240千円、交際費 240千円）

(定款にその他の事業の定めがない場合の活動予算書)

第10年度活動予算書

令和9年4月1日から令和10年3月31日まで

特定非営利活動法人J S Bデイリーサポート
(単位: 円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	0		
賛助会員受取会費	0	0	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	0		
施設等受入評価益	0	0	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	0	0	
4. 事業収益			
一般乗用旅客自動車運送事業収益	1,848,000		
高齢者に対して、身の回りの平易な作業を手伝う事業	288,000		
認知症サポーターを養成する事業収益	0		
ラグビーの振興・普及・支援に係る事業収益	732,000	2,868,000	
5. その他収益			
受取利息	20,000		
雑収益	200,000	220,000	
経常収益計			3,088,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	120,000		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	120,000		
(2) その他経費			
燃料費	360,000		
車両費	100,000		
保険料	120,000		
地代家賃	144,000		
旅費交通費	28,800		
消耗品費	27,000		
教育研修費	240,000		
交際費	240,000		
その他経費計	1,259,800		
事業費計		1,379,800	
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	20,000		
人件費計	20,000		
(2) その他経費			
旅費交通費	50,000		
リース料	100,000		
修繕維持費	30,000		
通信費	100,000		
水道光熱費	30,000		
接待交際費	30,000		
保険料	100,000		
消耗品費	50,000		
支払手数料	100,000		
諸会費	100,000		
支払報酬料	200,000		
新聞図書費	10,000		
租税公課	50,000		
支払利息	20,000		

雑費	10,000		
その他経費計	980,000		
管理費計		1,000,000	
経常費用計			2,379,800
当期経常増減額			708,200
Ⅲ 経常外収益			
1. 固定資産売却益		0	
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
1. 過年度損益修正損		0	
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			708,200
前期繰越正味財産額			△ 7,660,440
次期繰越正味財産額			△ 6,952,240